

# 令和元年度 埼玉県高等学校安全教育研究会

開催日：令和2年1月27日（月） 会場：埼玉会館 小ホール

参加者：高橋、下山



## 【開会行事】

今回の埼玉県高等学校安全教育研究会（略称：高安研）は、まず同会会長の山本美苗（埼玉県立越谷南高校長）氏による問題提起から開会した。その中で、昨年の台風19号被害を事例として、高校が避難所となった場合、生徒の安全をどう確保し、避難者をどう受け入れていくかの検討が必要であるという指摘があった。また、避難所となった県立鴻巣高校の報告等が載った高安研ニュース（会場で配布）の紹介もなされた。

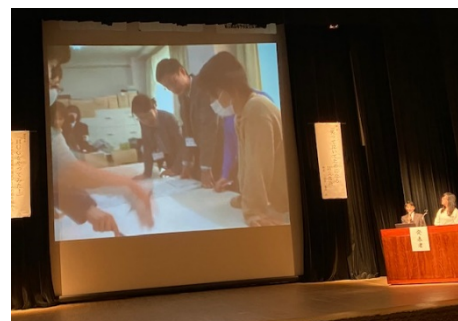
## 【研究発表 防火防災部会】

### 「HUGをやってみた！」越谷南高校避難所運営ゲームの取り組み

越谷南高校 深津久実 PTA 会長 山本美苗 校長

HUGとは、避難所(Hinan)・運営(Unnei)・ゲーム(Game)の頭文字をとったものである。具体的には、実際に学校が避難所となったことを想定して、机上で避難所の運営を行う取り組みのことである。

同校では、生徒、教員、保護者、外国人教員などが参加し、HUGを実践した。避難者の誘導通路や受付、部屋の割り振りなどをいかに決めていくかという様子がスライドや動画で紹介された。HUGを進めていくと、想定外のことが次々起こる。例えば、毛布の配布を知らせる掲示が必要になったり、日本語を話さない人、病気の人やペット連れの人など多様な条件の人がやってきて、臨機応変の即戦力が求められる。映像では、参加者の混乱ぶりなどがありのままに報告された（写真）。これまでHUGは2度行われ、2度目は駅からの誘導路、ペットの居場所、駐車位置なども検証されていた。こうした事態に対応するためには、ふだんからの備えが何より重要であるとの指摘、反省点などが述べられた。



## 【講演】

### 「笑って泣いてためになる 防災落語」

噺家 三遊亭鳳志さん

古典落語「牛ほめ」と阪神淡路大震災に題材をとった新作落語の2本立てに、災害にまつわる小話を交えた一席が披露された。新作は、震災の夜に帝王切開の手術をする決意をした産婦人科医の一日を描いていて、生命の大切さを訴えたお話だった。最後の主催者あいさつで、講演として落語公演を行ったことは高安研では初の試みだったが、今後も続けたいとコメントがあり、会場からはさらに拍手が沸き上がった。

## 所感

これまで埼玉県は比較的、天災・震災の被害などは少なかったが、昨年の台風19号では実際に避難した人や避難所となった県立高校もあり、他人事でないと感じた。また、越谷南高校の取り組みは、ゲームの形式を借りながらも、参加者たちが真剣に取り組み、苦心している様子などもよく分かり、他の高校でも実践してみる価値があると感じた。（文責・本部）